

学生と教員が学び鍛えあう保健学教育

～専門性を理解しあいインタラクティブに学び鍛えあう保健学教育～

《平成 23 年度新潟大学組織的教育プログラム実施報告》

藤原直士, 富山智香子, 坂本 信, 山崎芳裕, 李 鎔範,
定方美恵子, 村松芳幸, 齋藤君枝, 住吉智子, 鈴木 力

新潟大学医学部保健学科組織的教育プログラム推進室

要旨

平成 23 年度新潟大学組織的教育プログラム（新潟大学 GP）医学部保健学科取組「学生と教員が学び鍛えあう保健学教育」は、医療を支える使命感と能力をもち、チーム医療に対応できる人材の育成をめざす 2 つの教育プログラムの実質化を進めた。保健学への動機づけを図るプログラム「My confident lecture」では、新規科目「保健学総合」を初年次学生向けに開講し、学生参加型授業などの新しいタイプの授業の試みを行った。「保健学総合」を実践的に展開するプログラム「Our project study」では、少人数型の演習科目「保健学総合演習」の平成 24 年度開講をめざして模擬授業を試みた。それらの活動内容について、取組の課題とともに紹介する。

キーワード：新潟大学 GP, 保健学教育, チーム医療, 少人数教育

1. はじめに

新潟大学組織的教育プログラム（新潟大学 GP）医学部保健学科取組「学生と教員が学び鍛えあう保健学教育」は、新潟大学医学部保健学科がめざす教育理念と教育目標を具体化し、優れた医療人を育成する教育の一環と位置づけられる。前年度（平成 22 年度）の取組による準備と試行を踏まえて、平成 23 年度は取組の中心となる事業の具体化が進められた(1)。

この取組は、ひとことで言えば、保健学学士としての能力を身につけさせようとするものである。しかし、「保健学の学士力」についての、明確な定義があるわけではなく、大学教育としての保健学教育のあり方を自らに問う取組ともいえるかもしれない。

この取組は、従来から進めてきた自ら課題を探究し論理的に考える技法、現状を改善し粘り強く仕事を進める力、正確な知識に基づく的確な情報処理能力、他者への共感や異文化を理解できるコミュニケーション

力を育むことに加えて、医療行為における適切な判断力、決断力、行動力などを身につけることを重要と考えて、プログラムをデザインしたものである。

カリキュラムに総合的に保健学を学ぶ授業を組み入れるという前年度に作成したデザインに基づいて、平成 23 年度にその実践としての教育科目が開講され、模擬授業による試行が実施されるに至った。

以下に、本年度の取組の活動内容について、活動の中から明らかとなった課題とともに紹介する。

2. 平成 23 年度計画の実施状況

2.1. 取組の目的と目標

取組の目的は、医療専門職者に要求される判断力、決断力、行動力を、医療の知識や技術を、人間と人間の関わりの中から学ぶ 2 つの教育プログラム「My confident lecture」と「Our project study」を実施することである。

具体的には、看護技術、診療放射線技術、臨床検査技術というコメディカルの専門領域を超えて、各専門の視点の違いを認識し、その意義を相互に理解し合うための授業科目の開講を目標とする。同時に、専門分野の異なる教員が複数で指導を行うことにより、教育力を磨きあうこともこの取組の目標である。

2.2. 取組計画の実施

平成23年度の実施計画は当初計画からの大きな変更はなく、目的の教育プログラムに対応した2つの授業の実施に向けた活動を行った。1つは My confident lecture の授業科目「保健学総合」開講であり、他の1つは Our project study の授業科目「保健学総合演習」の模擬授業の試行である。

2.2.1. 「保健学総合」の開講

「保健学総合」は保健学科1年次生を対象に、第2セメスタにおいてGコード科目(選択, 2単位)として、金曜5限に開講した(2)。聴講者数は保健学科1年次生18人であった。取り上げられたテーマは、以下の14テーマである。

- ①保健学における医学の位置づけと専門性
- ②保健学における看護学の位置づけと専門性
- ③保健学における放射線技術科学の位置づけと専門性
- ④保健学における検査技術科学の位置づけと専門性
- ⑤チーム医療と保健学
- ⑥国際医療活動と保健学(1)ーアジアの国際保健活動ー
- ⑦国際医療活動と保健学(2)ー欧米の保健医療ー
- ⑧地域医療活動と保健学
- ⑨心と体の健康と保健学
- ⑩保健学と倫理

- ⑪性差と保健学
- ⑫医療事故・医療過誤と保健学
- ⑬がん医療最前線と保健学
- ⑭バイオメディカルテクノロジーと保健学

これらのテーマについて、コーディネーターとなる教員を中心に複数の教員が、授業の形式や内容について検討し、準備を行った。講義を中心とする授業だけでなく、学生によるディスカッションやグループワークを通して議論の内容を発表させる授業などを行い、学生の授業への積極的参加を促した。

授業の内容については、「保健学総合」のホームページを作成して、授業の前に、授業の概要や講義資料を学生が Web 上から閲覧できるようにした。また、授業テーマごとに、授業の要点や予習すべき点や更に進んだ学習のための説明も提示した。

成績は定期試験の成績に基づいて評価した。また、授業ごとに学生授業アンケートを行い、授業評価に利用した。担当講師からは講義資料の提出を受け、セメスタ終了後に講義資料とアンケート調査結果を取りまとめて資料冊子を作成した(3)。また、授業改善のため、教員に対しても授業に関するアンケートを行った。

2.2.2 「保健学総合」の授業評価

(1) 学生による授業評価アンケート

学生による授業評価アンケートの質問項目と評価を表1に示す。すべての回の授業について、授業への理解度、授業への参加、授業の成果、授業形式などに関する9項目の0-4の5段階評価および自由記述でのアンケートを行った。結果は、授業内容については概ね高い評価であり、とりわけ、授業への好感度は授業全体を通して高い評価を受けた。

表1 「保健学総合」学生による授業評価アンケート(数値評価)の結果

質問項目	授業各回の5段階評価(最低0~最高4)														平均
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	
1. この授業のテーマについて理解できましたか。	3.2	3.5	3.0	3.5	3.5	3.4	3.6	3.4	3.2	3.7	3.6	3.8	3.5	3.4	3.5
2. 教員の説明を理解できましたか。	3.1	3.6	2.7	3.5	3.6	3.6	3.9	3.6	3.3	3.8	3.5	3.9	3.2	3.3	3.5
3. 授業の前に授業ガイドを読んで予習しましたか。	1.6	1.4	1.1	0.9	0.9	2.5	1.2	0.7	3.1	1.8	1.8	1.5	1.6	1.1	1.5
4. 授業の中で質問したり、意見を発表したりしましたか。	0.2	1.0	0.2	0.2	0.5	2.1	0.3	1.5	2.9	2.2	2.6	1.1	0.7	0.9	1.2
5. 授業から新たな知識や考え方が得られましたか。	3.1	3.8	3.2	3.8	3.9	3.7	3.6	3.6	3.5	3.7	3.6	3.9	3.6	3.6	3.6
6. 授業を受ける前に比べて保健学への興味が深まりましたか。	3.2	3.6	3.1	3.8	3.8	3.6	3.5	3.7	3.4	3.7	3.6	3.8	3.5	3.5	3.6
7. 授業の内容をさらに掘り下げて学びたいと思いませんか。	3.4	3.2	2.7	3.5	3.4	3.5	3.5	3.4	3.4	3.6	3.4	3.6	3.5	3.3	3.4
8. このような授業形式について、講義形式と比べてどう思いませんか。	3.2	3.1	3.3	3.4	3.5	3.3	3.8	3.4	3.2	3.5	3.4	3.5	3.2	3.4	3.4
9. この授業への好感度は?	3.6	3.5	3.5	3.6	3.7	3.7	3.9	3.6	3.4	3.8	3.8	3.8	3.5	3.7	3.6

[資料・報告]

一方、学生の授業参加については、講義中心の授業では質問や意見発表機会が少ないという結果であったが、グループワークや討論を取り入れた授業においては授業参加への意識が高く、学生の参加を促すための技法を取り入れることが重要と考えられた。

課題として聴講者数が少ないという点がある。この原因として、開講初年度で、この授業科目が学生に十分認知されていなかったこと、開講時限が金曜5限であったこと、Gコード科目としての開講であったことなどが、学生からの授業アンケート自由記載からも指摘された。次年度に向けて、授業時限やMコード化などの見直しを進めるが、Mコード化については指定規則への対応も検討課題となる。

(2) 教員による授業評価アンケート

「保健学総合」に参加した保健学科教員36人に授業評価アンケートを実施し、15人から回答を得た。テーマの選択、授業の準備と実施、授業の負担などの10項目について、0～4の5段階の数値評価(表2)と自由記述についてみると、概ね、肯定的に評価していると考えられた。とくに、この授業に対して学生がよく集中していることがわかった。また、1つのテーマの授業を複数の教員が行うことについても、前向きに受け止められていた。

表2. 教員による「保健学総合」授業評価

1. この授業で取り上げたテーマの選択について	3.1
2. 授業テーマと自分の授業内容が合っていましたか	3.2
3. 授業内容が学生によく理解されたと思いますか	3.2
4. 学生は授業に集中していましたか	3.8
5. 授業の前に同じテーマの教員同士が話し合いましたか	2.9
6. 学生に質問や発言を促すための工夫をしましたか	2.8
7. 複数の教員による授業の是非について	3.3
8. 授業を行う負担について	2.7
9. 授業から自身の教育に関連して得られることがありましたか	2.7
10. 今年度の「保健学総合」への評価	3.1

2.2.3 「保健学総合演習」の開講準備とモデル授業

Our project study については、「保健学総合」の内容をさらに深め、演習を含めた授業として展開する「保健学総合演習」(選択・1単位)としての開講を目指して準備を行い、可能なものから模擬授業を実施した。

当初計画にそって、以下の4テーマの実施について開講準備を進めた。

- ①「チーム医療」: チーム医療に携わる医療専門職者の他分野の専門職者の技術に関する理解不足がもたらす問題点を知り、改善するための方策を学び合う。
- ②「国際保健医療」: 保健医療における国際的な視点を

育むため、発展途上国を主題とする医療保健と生活体系の現状を学ぶ。

③「ストレスと健康」: 健康と病気に密接に関連する重要な要素であるストレスについて学ぶ。

④「臨床現場への対応力(子どもの入院環境)」: 子どもの入院を例に、臨床における課題探求力、問題解決に向けた実践力について学ぶ。

これらのテーマについて、いずれも複数の専攻、複数の学年の学生から構成される小人数グループで実施する演習形式を想定している。

各テーマともに、平成23年度に授業に必要な器材の調達や資料等の作成などを行った。この中では、複数のテーマで利用できる医療用シミュレータを導入し、授業での活用方法などを検討するなど、開講に向けた準備作業が進められた。

とりわけ、テーマ「国際保健医療」では、日本学生支援機構の短期学生留学制度ショートステイ(SS)プログラムと連携して、モデルとなる模擬授業を実施した。模擬授業は、SSプログラムで来日し、本保健学科で学ぶスリランカ・ペラデニヤ大学の学生9名と保健学科学生13名が交流チームをつくり、学生自らが企画する交流活動を通して学び合うものとして計画した。学生たちは、互いの国の保健・医療事情についてのセミナー(使用言語は英語)を行い(写真1)、その後、参加した学生は浴衣着付けなど伝統的な日本の装いを体験した。交流活動への教員の支援は部分的に留め、学生が自ら主体的に考え、意志疎通に努め、議論しながら活動を進めるのを見守った。



写真1. 学生交流セミナー(保健学総合演習の模擬授業)

交流活動終了後の交流チームの学生の感想文によると、その多くの学生が、このような学術や文化的交流を自ら企画・実行していく中で、いろいろな問題に向

き合いながら行事をやり遂げた達成感と充実感を感じており、また、スリランカの学生とともに行動することを通じて生活や習慣、文化の違いを理解することの意義が述べられていた。このことは、Our project studyが意図する“課題を探求し、解決に向けた努力をすることで学ぶ喜びを見出す”ことの実践に通ずるもので、「保健学総合演習」の実施に向けた模擬授業として極めて有効なものであった。

3. 取組の達成度と成果の公表

3.1. 平成23年度の達成度

平成23年度は、2つの教育プログラムのうちMy confident lectureについては「保健学総合」を開講し、学生と教員の両方から授業評価を行うなどの実質化が進んだ。また、Our project studyでは、平成24年度の「保健学総合演習」の開講に向けた準備と模擬授業が行われるなど、計画された事業が着実に実施されており、平成23年度の取組目標はほぼ達成されたと考えられる。

3.2 成果の公表

3.2.1 取組の発表

平成23年度の取組内容を保健学科教員に周知し、取組に対する意見を求めるため、平成23年3月2日「新潟大学GP」保健学研究科・保健学科合同フォーラムを開催した(4)。フォーラムでは、保健学科と保健学研究科の「新潟大学GP」の取組や新潟大学医歯学総合病院の文部科学省GP看護職キャリアシステム構築プランの取組の進捗などが報告され、教職員間で意見交換が行われた。

また、「保健学総合」については初年次教育のあり方として、第6回日本臨床検査学教育学会学術大会のシンポジウム「これからの学生教育」で取組の一部が紹介され、同学会機関紙「臨床検査教育」に掲載された(5)。

3.2.2 ホームページ

平成23年度開講の「保健学総合」では、この授業独自のホームページを作成し、この授業の意義やねらい、授業スケジュールと担当講師などをウェブサイトから閲覧できるようにした。また、各回の授業内容の詳細な説明や学習方法について授業ガイドとして提供し、講義資料も授業の前に閲覧できるようにした。

取組全体のホームページについては「保健学総合演習」の模擬授業などの活動などをコンテンツ集積する作業を進めており、平成24年度に「保健学総合」のページを含めた形の構成として開設する予定である。

4. 平成24年度取組への課題

平成24年度は今年度の取組を充実、発展させることが課題となる。まず、「保健学総合」の受講者数を増やすための時間割の見直しが必要である。また、学生の発言を増やし、授業への参加をより積極的に促す方法を探るなど、授業方法についての工夫も必要であろう。同時に、このようなフォーラム形式の授業では、成績評価の客観性についての検討と検証も必要となる。

保健学科の履修科目では、国家試験との関連で専門科目について文部省指定規則に基づく承認がなされている。「保健学総合」や「保健学総合演習」専門科目として開講するにあたって、これら新たな科目の指定規則とのすり合わせが必要である。当然ながら、新たな科目を増やすことによるカリキュラムの過密化を防ぐことや教員への過度の負担とならないようにするなど、現行カリキュラムとの調整を進める必要がある。

また、保健学教育における国際化の推進も重要な課題であり、交流協定を締結しているスリランカ・ペラデニヤ大学との交流を一層発展させるとともに、これまで学生が研修を行ってきたカナダ・マクマスター大学についても交流の促進を図る必要がある。

さらに、取組についての内部評価および外部評価が必要であり、内部評価については保健学科点検評価委員会が担当する体制をつくる。外部評価については、学外保健医療機関の協力を得ながら、保健学教育の実態に合った評価の方法と体制を構築する必要がある。

平成24年度は本取組の最終年度として、このプログラムを完遂し、取組の成果を公表しその波及を図ることが課題であり、その達成が、保健学科の教育理念と教育目標を実践することにつながると考えている。

参考資料

1. 平成23年度新潟大学GP申請書 (保健学科).
2. 平成23年度新潟大学講義概要 (開講番号110M5030).
3. 「保健学総合2011」講義資料集.
4. 平成23年度「新潟大学GP」保健学研究科・保健学科合同フォーラム資料 (2012年3月2日).
5. 寺平良治, 岡野こずえ, 市野直浩, 大橋鉦二, 澤田浩秀, 谷口薫, 小林隆志, 藤原直士: これからの学生教育について, 臨床検査学教育, 4(1): 34-37, 2012.

2013年10月2日受理

新潟大学高等教育研究 第1巻 第2号, 2014